

読谷ブランドに「なんだばー」



紅イモ協命名「読谷南畑葉」

正体は「カンダバー」

芋の生産拡大に期待

【読谷】読谷村で作られたサツマイモの葉（カンダバー）をブランド化して売り出すと、読谷村紅イモ産地協議会総括会議で5日、カンダバーの名称を「読谷南畑葉（よみたんなんだばー）」にすることが決まった。「何だばー？」と聞かれると、「カンダバー」と返す冗談から名称が決まった。カンダバーは年間を通して収穫できるため、村や農業関係者は葉野菜が少ない夏の消費拡大を期待している。

「読谷南畑葉」は品種番号「沖育1ー1ー7」（通称・甘多）のサツマイモで、村内で収穫されたものに限る。名称は「読谷クンチバ1ー」「読谷カバ1ー」などの候補から、多数決で選ばれた。

同村商工観光課の山内嘉親係長は塩漬けにしてゆでた茎をご飯に混ぜ、葉を巻いた「おにぎり」を開発した。高菜のようなシャキシャキとした歯応えで、会議でも委員に好評だった。今月中には、JAおきなわのファーマーズマーケット「ゆんた市場」で販売される予定。

同村農業推進課の城間

消費拡大を目的にブランド化した「読谷南畑葉」と、それを加工した食材を使ったおにぎり5日、読谷村先進農業支援センター

康彦さんは「読谷南畑葉」は芋とは別にした形で分けて生産する予定だ。食用として広がることにより、芋の生産拡大につながってほしいと話した。

（池田哲平）

（2011年9月8日付 24面）

☆みんなの地域の特産物はあるかな？調べてみよう！

☆その特産物にオリジナルの名前を付けてみよう！

年 組 名前